



127

APOLLO

予想発表時期01年
メルセデスベンツ

A190ロング

豪華さのためでなく
実用性のためのロング

Aクラスはメルセデス初の本格的量販乗用モデルとして人気があがるが、排気量はともかく、ボディサイズがすぐ上のCクラスとはあまりにもかけ離れ過ぎている。さらに、2ボックスゆえシートアレンジは多様だが、3.6m弱の長さではおのずと限界は見えてくる。そこで登場す

るのが、A190のみに用意されたロングホイールベースモデル。Sクラスではすでにおなじみの手法だが、ここまで小さいボディでこの手法を使うのは初めて。これで、Cクラスを凌ぐフロアスペースとなる。これまでのセカンドカー的ポジションを脱却する。

126

APOLLO

予想発表時期03年
メルセデスベンツ

バネオ

ゴルフ版パシオも登場!?
VWのワイドラインナッパ

まるでAクラスのLサイズ・バンといえるバネオ。AクラスやVクラス同様、ミニバンのようなデザインでFFを採用したために、このようなスタイルとなった。「Aクラスのシャシーを流用せず、2重フロアも不採用」というウワサもあったが、より開発費を低くおさえるために、A

クラスのプラットフォームを流用。サンドイッチ構造の2重フロアを採用するようだ。これには、エルクテスト（緊急回避テスト）での横転という結果に対し、自らの非を認めるという潔い行動に好感が持たれたため、そのAクラス人気に便乗したいという考えもある。

128

丸形4灯のマスクを採用
メルセデスのドル箱がFMC

メルセデスベンツ Eクラス

予想発表時期01年

Sクラス、CクラスときたメルセデスのFMC攻勢だが、ついにメルセデスのもっとも売れ線モデル、EクラスのFMCが行われる。S、Cともひょうたん型のヘッドライトを採用したが、Eクラスに関しては異型丸形4灯ヘッドライトを踏襲する。これは、現行Eクラス登場以後さまざまな国のあらゆるモデルに、このヘッドライトが真似られてきたことから、本家

としてはその流れから引くことができなくなった、というところか。ボディデザインはサイドからリヤセクションにかけて、Cクラスよりは自然で伸びやかなデザインだが、Sクラスほどデカくない、という理想の黄金比率を持つことになる。Sクラスが大幅に小さくなったために、Eクラスも若干シュリンクダウンされるが、室内は現行以上に広い。

擬装が施されているとはいえ、あまりにも多くの場所で捕捉されているため、もう市販されていると思った人もいるくらいポピュラーになってしまったSL。丸みを帯びたなめらかなボディとひょうたん型のライトはS、Cクラスですでおなじみ。バリエーションは現行どおり3.2リットルV6のSL320から5.7リットルV12を

搭載したSL600まで用意される。ただし、AMGのSLに関してはSL32Kの登場は確定的だが、SL57K（5.7リットルまでスケールアップされたV8にスーパーチャージャーを組み合わせ、550ps以上を発生）の存在についてはSLRとの兼ね合いで未定だ。

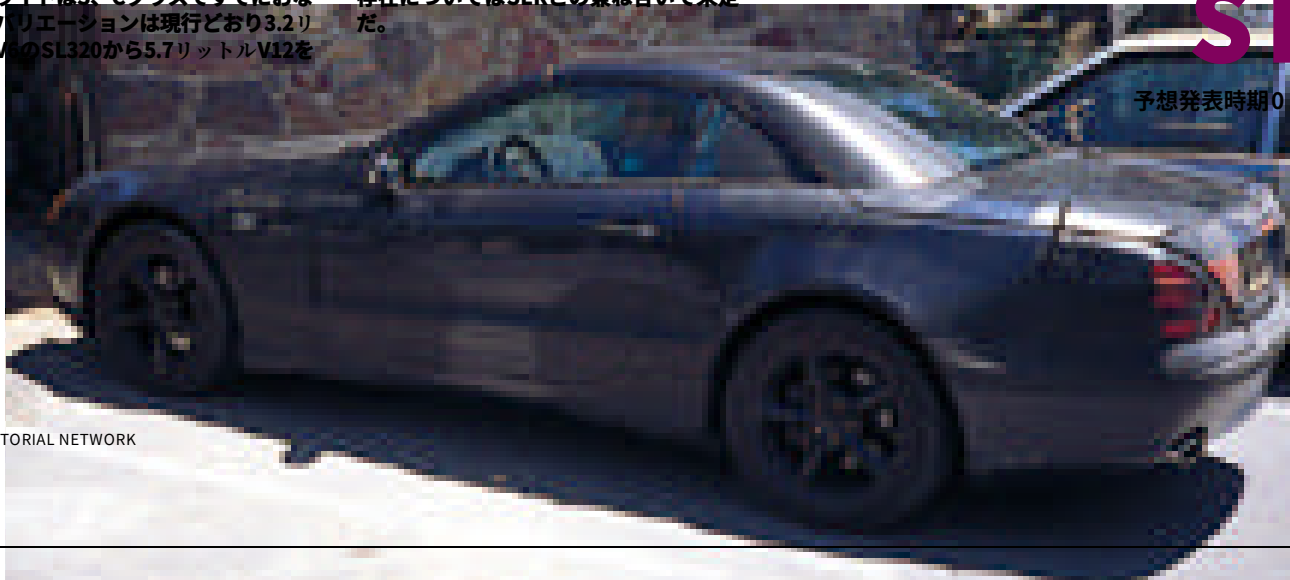
129

バリオルーフは見送り
ソフトトップ採用か。

メルセデスベンツ SL

予想発表時期01年

Photo. EDITORIAL NETWORK



21世紀ニモデル

SCOOP▶▶▶

120連発

130

クリニックはすでに終了
開発は最終段階に入ったメルセデスベンツ
マイバッハ

予想発表時期02年

INS

近代メルセデスのなかでもっとも大きく、荘厳なイメージを与えた63年デビューの600プルマン。マイバッハは、それに負けず劣らずの超高級プレステージモデルとなる。長さこそ6mほどでプルマンの域に達していないが、オリジナル600プルマン、そして先代Sクラスにも用意

されたS600プルマンと異なりこちらはフル4シーター。プライベート・プレーン感覚なのだ。すでに本国でのクリニックは終え、開発は最終段階に入っている。ちなみにコンセプトモデルのデザインは日本の研究センターで作られたもののようだ。



131

フルタイム4WDを実装する
本格スポーツクーペメルセデスベンツ
CLK

予想発表時期02年

CクラスがFMCしたことにより、CLKの存在が微妙になった。CクラスとEクラスの間に位置するCLKは次期Eクラス登場前に、SLRルックでデビューが予定されている。現行モデルよりもやや大きくなるボディは、BMW5シリーズベースの次期6シリーズクーペを考えてのこと。さらに、5.7 V8スーパーチャージャーを搭載するAMG CLK57にも対応する強度を持つボディとなる。AMGに関しては、より小さいSLK32同様、CLK32もデビューする予定だ。全体的には現行モデルよりもEクラスに近いポジションに設定し、価格的にも車格的にも1ランクアップするような政策が取られるはずだ。また、新しい試みとして、このCLKにはフルタイム4WDが用意されている。

EDITORIAL NETWORK



132 予想発表時期01年

AMG・SLK32K

T.Suganuma

日本でも、やっと販売が開始されたSLK320。そして、いままでこのクルマにだけは手をつけなかったAMGがついに動き出した。SLK32と呼ばれる3.2 V6は、スーパーチャージャーを装着することにより354psを発生する。そして、これはCクラスにも飛び火しC32も登場する。



133 予想発表時期02年

MCCスマート・ロードスター

Hans G.Lehmann/ORION PRESS

99年のフランクフルト・ショーと00年パリ・サロンに出展された、RR600のスマートベースのオープン2シータースポーツ。日本も正式にスマートの輸入が開始されたことから、このロードスターも日本に導入されるのは確実。これに刺激され、ビートやカプチーノなどが再び生産されれば楽しいのに……。

134 予想発表時期03年

クライスラー・ネオン

アメリカではひとつのモデルが成功すると、次期モデルは必ずボディが大きく豪華になり、車両価格がアップする。しかしネオンの場合3代目に当たる次期モデルは、提携関係にある三菱とヒュンダイが開発に協力するため、逆にシュリンクされる。また、三菱などでもOEM生産されるかもしれない。

135

予想発表時期02年
メルセデスベンツ

MLロング

MLにもロング発見!
フルアメリカンサイズSUV!

メルセデスはスタディあるいは実際の車両に追加するモデルのひとつとして、「L」サイズを作るのがマイブームになっている。もともと、最上級サルーンSクラスの居住性向上を狙い60年代後半から設定されたのがLモデルの始まり。MLも居住性アップのためにホイールベースを延長し、とくに後席と荷室が広がる。

APOLLO